みんなで正信偈のお勤めをして始まります　http://eisyuji.org には活動の様子があります

無明

宗祖親鸞聖人
御誕生 850th
立教開宗 800th
真宗大谷派（東本願寺）

永宗寺だより
第３４号

発行
真宗大谷派
黒崎山　永宗寺
住職　永崎 暁
富山市柳町 3-6-3
☎ 076-432-0247

コロナ禍の中で、令和４年の新年を迎えました。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

昨年も新型コロナの影響があちこちに見られた一年でした。さまざまな行事やイベントが中止されたり縮小して行われたりした中、当寺では感染症対策をしながら、ほとんどの行事を行うことができました。

ようやく感染者が減ってきたこともあり、今年はこども会を2度、開催することができました。特に12月は参加者も多く、本堂がこどもたちのにぎやかな声で包まれました。

こども会は、合掌で始まり合掌で閉会します。合掌はもともとインドに古くから伝わる作法で、この合掌が仏教と結びつき、何千年もにわたり遠く日本まで伝わり、日本の生活文化として広く浸透しています。

インドでは右手は神聖なもの「仏」を表し、左手は汚れたもの「私たち凡夫」を表していて、食べ物は清浄な右手のみで扱うそうです。

仏さまの前で左右の手を合わせるということは、凡夫が仏に出会うことを意味します。浄穢・善悪・正邪などの両面を合わせ持つ私たちが、仏の教えに出会わせていただく姿です。

また亡き人に手を合わせたり、いただきますと合掌したり、それは感謝と敬意を伝える作法ともいえます。

合掌している間は、手に武器を持てないので、「無抵抗の絶対平和」をも表しているそうです。七高僧の龍樹菩薩は、人間の一番美しい姿は合掌をしている姿であるといわれたそうです。こどもたちの合掌の姿を見て、本当にそう思わされました。

親鸞聖人誕生８５０年にむけて

大谷派では、２０２３年の親鸞聖人誕生８５０年に向け、いろいろな取り組みがなされています。この年はまた教行信証を完成なされてから８００年にも当たり、立教開宗の意味も持ち合わせています。

２０２３年の３月より４月末まで東本願寺への団体参拝もあります。是非みなさんと一緒にお参りいたしましょう。

慶讃事業については https:/kyousan.higashihonganji.or.jp/news/ でもご覧いただけます。

宗祖親鸞聖人 御誕生 850th 立教開宗 800th 真宗大谷派（東本願寺）

〈慶讃テーマ〉

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

４～５面には同朋新聞の２０１９年７月号に掲載されていた、慶讃事業についての概要を載せてあります。

５面の下に記載されているように、本山より門徒各戸へのご懇志のお願いが出されています。

永宗寺では、平成28年の法要と修復のお願いに含めて勘募しておりましたので既にお納めいただいている方も多いのですが、まだお納めでない方はこの機会にどうぞご協力いただきたいと存じます。

慶讃懇志金

各ご門徒への御依頼

一件あたり三千円程度

永宗寺をとおしてお納めください

※すでに永宗寺の御遠忌志をお納め頂いた方は既納となります。本山の記念ボールペン等は６月頃にお渡しいたします。

《今年の主な行事予定》

◆祠堂経（春）　３月21日

◆暁天講座　８月３～４日

◆五十回忌総法要・お盆会　８月13日

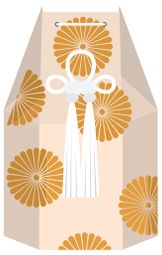
◆祠堂経（秋）　９月23日

◆報恩講　11月４～５日

2022年　年忌表

・１周忌	令和３年没
・３回忌	令和２年没
・７回忌	平成28年没
・13回忌	平成22年没
・17回忌	平成18年没
・23回忌	平成11年没
・27回忌	平成８年没
・33回忌	平成２年没
・50回忌	昭和48年没

分骨は本山へ納めましょう



日本ではまだ土葬の文化が根強かった江戸時代の頃から、真宗門徒は火葬にして、分骨を京都へ納めてきたそうです。

それは全国の門徒や親鸞聖人と俱に一つの処で会うことを願われてきたからです（俱会一処）。ですので、分骨はできるだけ京都へ納めることをお薦めしております。

富山教区から3月の団体参拝の案内がありました。京都での本山の宿泊費用分は補助されますので、この機会に納骨されたい方は、定員もありますので早めにお問い合わせください。

また、当寺でも2月頃に代理納骨を行う予定をしておりますので、こちらの希望の方もお問い合わせください。

◎　富山教区　収骨団体参拝

日時　3月15日～16日　1泊2日

費用　電車交通費実費

納骨志（東大谷　二万円～）

（東本願寺　十二万円）

宿泊　本山・同朋会館

同朋会館はホテルではなく研修施設です。全国から門徒さんが集い、寝食をともにしながら、教えに出会う場として本願寺境内にあります。ここで真宗門徒の生活を習うことは、日常では得られないかけがえのない体験となります。

日程

1日目　6:30　富山駅集合
10:10　東本願寺・両堂参拝
13:00　収骨（東大谷or東本願寺）
15:00　以降、同朋会館日程

2日目　7:00　おあさじ
10:00　同朋会館日程
16:00　同朋会館退館
20:41　富山駅着

締切　2月15日（定員があります）

◎　永宗寺　代理納骨

費用　納骨志（東大谷　二万円～）

（東本願寺　十二万円）

手数料　三千円

締切　2月10日

こども会のご案内

案内を同封させていただきましたがこども会の会員を募集しています。

これまで250人を超えるこどもたちに案内を送ってきました。お子さんでもお孫さんでも、お寺まで来て参加することができなくても大丈夫です。

こども会に申し込みいただくと、記念の念珠をお送りして、また年に4回ほどのお便りが届きます。さらに小学校の卒業に合わせ記念の本もお送りしています。卒業年をお知らせください。

親から子へ、子から孫へ、将来どの地域に住むことになっても、一人ひとりに真宗のご縁が伝わり、生きる支えとなることを願っています。

同朋新聞２０１９年７月号より

慶讃テーマ

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃テーマについての動画を公開しています
http://www.higashihonganji.or.jp/news/courtesy/29481/

真宗大谷派 検索

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

真宗大谷派では2023年に「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えします。法要までのお待ち受け期間にとどまらず、法要後の宗門を見据えて「慶讃事業」を進めていきます。

慶讃事業の願い

慶讃法要をご縁とし、あらためて宗祖が顕かにされた教えをいただきなおし、次の世代に教えを相続していくことが、これまでお念仏を伝えてくださった無数の先達から願われています。慶讃事業のあらゆる取り組みは、私たち一人ひとりが、人と生まれたことの意味をたずねていく場を創造していくものです。

私たちの次の世代へお念仏を手渡していくために、これからの宗門を形づくっていきます。

法要について

法要の歩み 当派では、1872（明治5）年に立教開宗を元仁元（1224）年とする宗派決定がなされました。それに基づき1923（大正12）年に初めての立教開宗七百年記念法要が勤められ、1973（昭和48）年には親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年慶讃法要が勤められました。そして、このたび2023年に宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を皆様と共にお勤めいたします。

第1期法要	2023年 3月25日（土）から4月 8日（土）
第2期法要	2023年 4月15日（土）から4月29日（土）
讃仰期間	2023年 4月 9日（日）から4月14日（金）

《基本日程》 13時…集会（集合） 13時20分…勤行 14時30分…法話（約30分）

《法要次第》 正信偈草四句目下、念仏讃淘三・六首引、回向（同朋唱和）を基本とし、各期に初中結を設け、各期一座は音楽法要を、各期末日は伝統法要式とし、参堂列（庭儀）による稚児行列を行います。

法要は一日一座とし、法要の前後の時間帯には、法座やさまざまな展示を企画します。団体参拝については、２０２０年７月以降に募集を開始する予定です。

また、真宗本廟が創立されて750年を迎える２０２１年春に、真宗本廟において「真宗本廟お待ち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会」を開催します。 ※詳細は、内容が決まり次第、お知らせします。

総計画（予算概要）

2019年度から2022年度の4会計年度にわたって慶讃事業に取り組んでいきます。

収入	合計 35億円
❶特別賦課金	5億676万円
寺院賦課金 2億444万6,500円	
僧侶賦課金 3億231万3,500円	
法要厳修年の2022年度に寺院・僧侶に賦課	
❷冥加金	200万円
❸懇志金	29億9,023万円
教区御依頼額:29億円／企業・団体懇志他	
❹雑収入	101万円

支出	合計 35億円
❶法要費	4億4,515万円
❷境内参拝設備費	4億5,000万円
法要設備・境内整備	
❸教学教化費	4億5,990万円
❹記念事業費 聖教編纂事業	1億円
❺宗門基盤整備費	8億5,000万円
寺院活性化支援資金繰入金:5億円	
宗務改革推進資金繰入金:2億5,000万円	
教区教化基盤整備費:1億円	
❻伝道広報費	1億7,500万円
❼調進費 慶讃懇志記念品調製他	2億5,760万円
❽教区交付金	1億1,600万円
❾事務所費 人件費・旅費・会議費他	5億1,970万円
❿予備費	1億2,665万円

◆ご懇志（慶讃懇志金）のお願い

宗祖の御誕生と立教開宗を勝縁とする慶讃事業は、宗門の将来を見据えた取り組みです。つきましては、お一人でも多くの方々から、この慶讃事業に対する深いご理解と格別のお力添えをたまわりたく、何卒よろしくお願い申しあげます。

ご懇志はお手次ぎの寺院・教会をとおしてお納めください。また、真宗本廟（東本願寺）及び大谷祖廟へのご参拝の折にもお受けいたしております。

ご懇志を進納されたすべての方に記念品（ボールペン）を贈呈します。進納額が5千円以上の方には、さらに腕輪念珠を贈呈します。

ボールペン（全4色）

腕輪念珠

慶讃事業の主な取り組み

慶讃事業を進めていくにあたり、次の**3つの方針**を根幹として、将来の活力あふれる宗門の創造に向け、以下のことに取り組んでいきます。

❶ 宗門の基盤づくり―新たな教化体制の構築―
❷ 本願念仏に生きる「人の誕生」と「場の創造」
❸ あらゆる人びとに向けた「真宗の教え」の発信

5つの重点教化施策

青少幼年教化 -ひとりと出会う-

青少幼年教化に携わる人の養成、子どものつどいの開催、子ども会講習会の拡充、若者教化の場づくり支援、子どもから大人まで親しめる『真宗児童聖典』（仮称）をはじめとした教材の制作、青少幼年の帰敬式受式奨励などを行います。

教師養成 -教学教化を荷う-

僧侶の「教えを伝える力」、「老病死の現場における対話の姿勢」を養うため、真宗大谷派教師養成課程に「法話実習」や「グリーフケア」など、実践的な学びを取り入れるとともに、教師資格取得後の学びを確保するための研修制度を構築します。

寺院活性化 -1カ寺の原点を確かめる-

お寺の主体的な活動を支える「元気なお寺づくり講座」、過疎や過密地域の寺院に教えの場を開く「お寺に寄り添う講師派遣」、子どもや若者との出会いの場をつくる教化支援を行います。支援員が出向き、地域やお寺の状況に合わせた支援を実施します。

真宗の仏事の回復 -念仏相続の場を継承する-

朝夕のお勤めや報恩講をはじめ、通夜・葬儀・法事などのあらゆる仏事が、御本尊を中心とした聞法の場となることを目指し、真宗の仏事の回復に取り組みます。特に御本尊を手渡す取り組みなどを行う教区への助成や、仏事の意味を伝えるハンドブックの作成などを行います。

本廟奉仕上山促進 -真宗門徒の生活を習う-

寺院単位や一般向けの本廟奉仕の拡充をはじめ、慶讃法要お待ち受け期間に、御誕生・立教開宗に関するご旧跡を巡る奉仕団などを実施します。慶讃法要期間中にも本廟奉仕を実施します。

将来を見据えた宗門の基盤整備

著しい社会変化を見据えつつ、教学の振興と教化の推進に軸足をおいた宗務機構への質的転換を図り、宗門活動の基となる寺院、組、教区のさらなる活性化を促す取り組みを進めます。具体的には「教区に設置される寺院活性化支援室の充実化」、「教区及び組の改編をはじめとする宗務改革の推進」、「教区教学研鑽機関の整備・充実と地方都市教化の展開」に取り組んでいきます。

記念事業 聖教編纂事業

当派の依り処とする聖教に関する情報の収集・調査を行い、そこで得られた知見を公開し、あらゆる教学教化の礎となることを願いとしています。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念として編纂された翻刻『坂東本・教行信証』の縮刷版や延書の刊行をはじめ、宗祖の著された仮名聖教や和讃、漢文著作などについて、本文に加え、読解に資する校異・注釈等を付した聞法のテキストを順次刊行していきます。

さらに、『真宗聖典』データベースの公開のほか、「時代に相応しつつ、伝統を正しく表現する」という現『真宗聖典』編纂当初の願いを継承し、第2版の刊行に向けて取り組みを進めています。

坂東本『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』

同朋新聞はこちらからもご覧頂けます。https://higashihonganji-shuppan.jp/agency_paper/#d1

団体参拝について

ご懇志のお願い

仏教教典には、たくさんの説話があります。今回は人間を縛る言葉についてのお話です。

私たちは、肩書きや評価など自分に与えられたレッテルをまるで自分の存在の全てであるかのように受け止めて、そのレッテルで思い悩んで落ち込むでしまう、と経典は教えています。

名前を探し歩いた少年

▼あるところに『悪者』という意味の名前を持つ少年がいました。この少年は、その風変わりな名前のせいで、周囲の人たちからよくからかわれていました。

あるとき一生懸命に牛の世話をしていると

「おい見ろ。悪者なのに牛の世話をしているぞ」

「いい心がけだな、悪者」

と、からかわれました。

何度もからかわれて、たまりかねた少年は、近くに住む徳の高い先生に相談に行きました。

少年「先生、わたしは自分の名前がイヤでならないのです。悪者という名前のせいで、良い行いをしていても、からかわれてしまいます」

先生「そうか、ではこれから国中を旅して、自分に合ったよい名前をさがしてきなさい。見つかったならば、その名前に変えてあげよう」

こうして少年は、名前を探す旅に出ました。

少年が旅をしていると、葬送の列を見かけましたので、その葬列の一人に尋ねてみました。

少年「すみません、亡くなられた方はなんという名前だったのですか？」

従者「彼の名前は『命ある者』という意味の名前だったのだよ」

少年は思いました。『命ある者』という名前であっても、死んでしまうんだなぁ。

また別のところを旅していると、道に座り込んでいる貧しい人を見かけたので、道行く人に尋ねました。

少年「すみません、あの人の名前はなんというのですか？」

通行人「ああ、あの人の名前は『宝守』という意味の名前だそうだよ」

少年は思いました。『宝守』という名前であっても、あんなに貧しいんだなぁ。

そのとき、別の人が少年に声をかけました。

旅人「君はずいぶんと旅慣れていそうだなぁ。実はさっきから道に迷ってしまっていて、困っているんだ。道を教えてくれないかな」

少年「あなたのお名前はなんというのですか？」

旅人「私かい？私は『旅慣れ』という名前だよ」

少年は先生のもとに戻って旅で見てきた事を話しました。

少年「先生、私は愚かでした。旅で出会った人たちは、『命ある者』は死を迎え、『宝守』は貧しく、『旅慣れ』は道に迷います。名前によって人の生き方が変わるわけではないのですね」

先生「よく気付いた。人間の価値を決めるのは、呼び名ではなく行いにあるのだよ。お前は名前の意味にとらわれて自分を否定してしまうことなく、胸を張って生きていきなさい」

先生「動物を見てごらん。どんな呼び方をされても、それで落ち込んだり悩んだりする事はないだろう。しかし人間は言葉によって生きる動物だ。言葉は便利であるが、ときに人を傷つけたり縛ったりする事がある。そのことをよくよく考えてこれから生きていくのだよ」

（月刊同朋より）

五十回忌総法要御案内

永宗寺ではお盆の時期に、門徒物故者の五十回忌総法要をお勤めしております。ご招待は直系の方にお送りしていますが、分家筋の方なども、どうぞご縁ある方はお参り下さい。

日時　8月13日（土）
　　午前10時より

今年五十回忌を迎えられる方

新鋪久正　石川清次郎　石倉ツヤ
今井淑美　岩本美江子　翁直松
音花忠信　開発ヨキ　川島なか
河原次良吉　坂本健太郎　竹嶋栄子
佐々木チヤ　谷川利男　長治義雄
土井一雄　針田良二　村口秋生
平野粂次郎　宮下滋次郎　山崎栄吉
室谷安次郎　山田喜三郎　山崎ます
山田久信　山本洵子　吉川兼敏
中村磯右エ門　吉田勉　米本きい
（敬称略）

お預かり物について

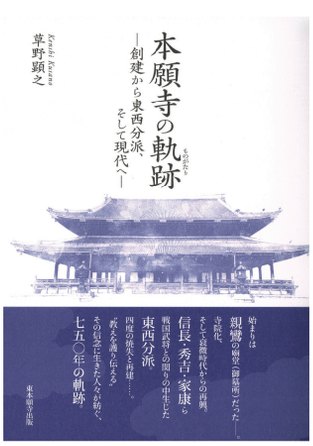
しばらくの間ということで、門徒の方よりお預かりしている仏壇や置き物などがありますが、十年以上お引き取りのない物については、今年度処分させていただく予定です。

連絡先の分かる場合はこちらから確認のご連絡をいたしますが、古くて預けた人の分からない物や、転居で連絡先の分からない方の物については、お預かりのお約束の十年が過ぎていますので処分させていただきますので、どうぞご了承下さい。

なお、仏さまの軸や法名軸など、永代のお預かりとなっている御軸関係については、今回の処分の対象外ですので、引続きのお預かりいたします。

（処分）十年以上預かりの物品
（保存）法名軸、御本尊・脇掛

本の紹介



親鸞聖人が京都で亡くなられた後、東山の地に大谷廟堂という小さなお堂が建てられました。

その小さなお堂が、一体どのようにして巨大な阿弥陀堂・御影堂の両堂を有する現在の真宗本廟・東本願寺へと発展したのか…？

織田信長との10年戦争の末に大坂本願寺を退去した理由、関ヶ原に家康参戦が間に合ったのは本願寺教如からの知らせだった、など、読んでみて初めて知ることも多くありました。

「本願寺の軌跡」
東本願寺出版
ISBN　978-4-8341-0637-4

お内仏に手を合わせましょう

報恩講について

浄土真宗は、ずっと昔から報恩講の教団であると言われてきました。

毎年秋には各寺で報恩講が勤まり、また門徒の各家庭でも報恩講を一年の仏事の中心としてきた歴史があります。

報恩講とは、「御恩を報（し）らしめられる講（あつまり）」ということで、先立たれた方が私たちに教えてくださったことを知る大切な仏事です。

先立たれた方は、自らのいのちを尽くして「諸行無常」を具体的にお示しくださります。

自分自身のいのちも含めて、世界の全ては自分の思い通りにはならないと知らせてくださっているのです。

しかし私たちはどうにも思い通りにならない人生に、なんとかうまい攻略法がないかと、右往左往しながら迷っているのです。

浄土真宗の教えとは、思い通りにならない人生であっても、そこに全力を尽くせる道があるのだと示してくださる教えなのです。

ご家庭で報恩講をお勤めしましょう

・一件あたり約1時間、大寺・小寺でお伺いしています。最初にお茶をいただいて、続いてお勤めを致します。

・お勤めは、正信偈は普通の節で、続く念仏・和讃は丁寧な節になります。

・お勤めに続いて住職が短く法話をいたします。

編集後記

▼忘年会では乾杯の声で宴会が始まります。法事のお斉の席では、乾杯ではなく献杯を頼まれることがあります。

▼献杯をインターネットで調べると、「乾杯は慶事に行い献杯は弔事に行う」と書かれていましたが、もともと献杯は神事の言葉で、仏事や弔事と関係のない言葉です。他にも献杯の挨拶の例やマナーなども書かれていましたが、ひとつ大事なことが書かれていませんでした。それは、献杯は浄土真宗では使わないということです。

▼真宗の教えに則せば、お斉は宴会でなくあくまでも仏事です。故人を偲ぶお斉で食べる「いのち」によって、私が支えられている事実を大切に受け止める仏事なのです。

ですからお斉の席では「いただきます」と始めるのが良いでしょう。